

授業科目名	日本語学（Ⅰ）	単位数	2
担当教員名	なかのじろう 中野二郎	担当形態	単独
実務内容 （実務家教員の場合）	日本語ノンネイティブに日本語を教える立場、日本語教員（或いは教員を目指すもの）に音声指導法を教授する。		
<p>「学位授与の方針」との関係  学位授与の方針」との関係  多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>（１） 音声学の基礎的な用語を正しく深く理解する。  （２） 外国語としての日本語の音声的特徴を把握する。  （３） 日本語ノンネイティブの発音に生じうる誤りの典型的パターンを把握する。  （４） 音声指導法の代表的なものについて、その考え方、具体的な指導法を知る。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>「日本語教育」で学んだ知識に基づき、外国語の音声を習得するとはどういうことか、学習者から見た日本語の音声的特徴はどんなものか更なる知識を得る。その上でケース毎にどのような指導が有効か、また指導上の留意点は何かを考える。受講生各位は現場での様々なケースを想定しながら、具体的な指導につながるよう取り組むことを期待する。</p> <p>関連科目：「日本語教育」を修了した後の履修が必須。  「言語学」、「日本語教授法」、「日本語教育演習 1」と関連する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 L1 音声を教える前に（教師の役割等）  第2回 L2 母音と子音（日本語の音声は簡単？、日本語の母音）  第3回 L2 母音と子音（日本語の子音の1）  第4回 L2 母音と子音（日本語の子音の2）  第5回 L2 母音と子音（音素と異音、有声音と無声音、母音の無声化）  第6回 L2 母音と子音（長音、促音、撥音、二つの言語を比べる）  第7回 L3 拍とリズム（長い？、短い？、「拍」って何？）  第8回 L4 アクセント（日本語のアクセントの特徴、「高い」―「低い」の練習）  第9回 L4 アクセント（いろいろな品詞のアクセント等）  第10回 L4 アクセント（アクセントを教える？教えない？）  第11回 L5 イントネーション（アクセントとイントネーション）  第12回 L5 イントネーション（「ヤマ」等）  第13回 L5 イントネーション（文末のイントネーション、視覚化）  第14回 L6 音声を教えるときに（上手にならない？、練習がきらいな学習者）  第15回 L6 音声を教えるときに（教師の役割）</p> <p>定期試験</p>			

スクーリングでの学修内容

- (1) アイスブレイキング  
各自の外国語音声の習得についてお互い振り返る
- (2) 基礎的な用語の意味確認  
アクセント、イントネーション、拍、リズム等
- (3) 「日本語の音声の特徴」を再考
- (4) 様々な指導法、教材を概観
- (5) ケーススタディ  
〇〇語母語話者が「××」の発音がうまくできない。  
原因をどう考え、どのような指導をするか考える。  
※アクティブラーニングの手法も用いて実施

教科書

国際交流基金 著『音声を教える』ひつじ書房

参考文献

斎藤 純男 著『日本語音声学入門』（三省堂）。他は必要に応じて適宜紹介する。

学生に対する評価

スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（50%）を総合して評価する。